しめ縄づくり教室開催　若槻小学校

12月１日、若槻小学校体育館において５年生約70名によるしめ縄づくり教室を開催しました。

講師には、地区内居住の75歳から94歳の５名があたり、かつては「藁」を日用品にも加工して使われたこと、「紙垂」（しで）は、しめ縄につけることにより「ここから奥は神聖な場所である」ことなどの説明を受けて、児童は十数人づつが４班に分かれてしめ縄づくりを始めました。

藁（わら）は、児童が田植えから手を加え、米を収穫したあとのものを使用しており、これぞ教育なりというところです。藁は既に「すべ」を取り除きしめ縄を綯う（なう）ばかりになっているはずでしたが「すべ」が多く残り、更に選る（すぐる）ことから始めることになりました。その後、牛蒡締め（ごぼうじめ）というしめ縄の形にして行くのですが、児童は仲間と元気良く、かつ一生懸命に挑戦しました。

初めてのことで、なかなかしめ縄の形にならなかったのですが、少しヒントを与えると仕上げることができる頼もしい子も多数いました。最後に紙垂の作り方を学んでしめ縄づくりは終了しました。

当地でのしめ縄は、常盤松（ときわまつ）と紙垂との３つが一体となって完成しますが、今節は松の入手が容易でないことからしめ縄の作成のみとなりました。

農耕民族である日本では米を主食とし、稲の土台とも言える「藁」を使って農業が営まれ、生活の中にも藁を使われることが多かった。

藁を使った生活用品としては、「俵」「ばせ」「ねこ」「莚」（むしろ）「草鞋」（わらじ）「藁つと」などがあるが、死語と化しつつある。

日本では3,000年ほど前に水田稲作が伝わり、その後数百年で本州北部まで耕作されるようになったとされる。米を作る面積を増やす者が次第に権力を握ることとなり、時を経て江戸時代には米経済により石数で大名が格付けされる世になった。

神仏を拝み、豊作を祈念してきた歴史の中で、現代にもしめ縄は生きているのである。

稲作活動体験　徳間小学校

徳間小学校では、今年度も地域講師の皆様にご指導をいただきながら、稲作活動を５学年児童が体験しました。

６月６日に行った田植えでは、はじめに説明を受け、その後、一列に並んで苗をていねいに植えていきました。植えた後に苗が水面に浮いてしまわないように，深さを考えながら慎重に植える姿や、友だちと協力しながら苗を運んだり渡したりする姿、土に足をとられそうになりながらもグッとふんばる姿などなど、すてきな姿がたくさん見られました。

10月10日に行った稲刈りでは、地域講師の方から『鎌の持ち方』『稲の刈り方』『束ね方』などを最初に教わりました。今までに経験した子もいたと思いますが、５年生の友達と一緒に行うのは、もちろん初めての体験。きっとドキドキとワクワクの気持ちだったことでしょう。『ザクッ』『ザクッ』と心地よい音を感じながら稲を刈る姿。友達と声をかけ合いながら、刈った稲をまとめていく姿。力加減が難しい中、麻紐をぎゅっと縛りながら稲を束ねる姿。はぜ棒にバランスよくかける姿…というように、『稲刈り』の中にも、実に様々な作業がありましたが、それらをうまく分担しながら、自分たちの手で進めていくことができました。

そして、いよいよ10月25日、脱穀です。今回も地域講師の皆様に教えていただきながら、安全に作業をすることができました。田んぼに落ちている稲穂や細かいお米を、ていねいに拾い上げている姿も見られ、「一生懸命育ててきたお米を大切にする気持ち」が伝わってきました。収穫の秋、実りの秋、とてもいい体験ができた１日となりました。

年間を通して、様々な学びを深めるとともに、支えていただいた地域講師の皆様への感謝に気持ちをもつことができました。